

「稲作所得試算ツール2017」について

1 目的

「稲作所得試算ツール2017」（以下「ツール」という。）は、経営体が需要に応じた米生産により所得拡大を図ることを支援するためのものです。

2 ツールの構成

「現状の品種別作付面積で得られる所得」と「計画の品種別作付面積で得られる所得」を比較することで、現状より所得が拡大する品種構成を試算することができる構成となっています。

(1) 10a 当たり品種別所得の目安（別紙1）

10a 当たり品種別所得の目安を品種・区分別に試算したもので、試算の前提は以下のとおりです。

【試算の前提】

| | 項目 | 設定の考え方 |
|----|-------------------|---|
| 収入 | 単価 | 平成30年産米を想定し県で設定 |
| | 収量 | 水稻栽培指針に基づき設定 |
| | 国助成金 (10a 当たり) | ・加工用米 2万円 ・輸出用米 2万円 ・飼料用米 10.5万円+1.2万円 |
| 経費 | 品種毎に積算した経費 | 種苗費、肥料費、農薬費、諸材料費、動力光熱費、労働費は品種毎に積算した数値とした。 |
| | 全品種同一とした経費 | 上記以外の経費は、新潟農林水産統計年報の平成27年産米生産費（500a以上）の数値とした。 |

(2) 稲作所得試算表（簡易方式）（別紙2）

現状の品種別作付面積を入力し、10a 当たり品種別所得の目安（別紙1）を参考に計画の品種別作付面積を入力することで、現状と計画の所得差を簡易に試算できます。

(3) 稲作所得試算表（作業計画考慮方式）（別紙3）

現状の品種別作付面積を入力し、10a 当たり品種別所得の目安（別紙1）を参考に計画の品種別作付面積をコンバイン能力、水稻作付面積等を考慮して入力することで、現状と計画の所得差を作業計画等を踏まえ試算できます。

3 ツールの活用

農業普及指導センター等での経営体に対する個別相談・指導及び地域段階の指導・啓発資料作成等に活用してください。

4 ツール活用の留意点

- (1) 10a 当たり品種別所得の目安、熟期、機械能力を考慮しつつ、需要に応じた品種構成としてください。
- (2) 地域の実態に応じ品種の変更・追加、単価・収量・助成金・経費の修正をして活用してください。
- (3) 具体的な入力方法は、別紙2及び別紙3に記載してあります。